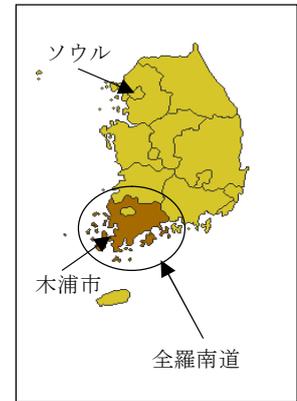


韓国木浦市で孤児 3000 人を育てた高知県出身のオモニ ～ 田内千鶴子さん生誕 100 周年記念行事の開催 ～

ソウル事務所

2012 年 10 月 30 日 (火) と 31 日 (水) に、韓国の「木浦共生園」で孤児 3000 人を育てた、高知県出身の田内千鶴子さん(韓国名:尹鶴子^{ユンハクチャ})の生誕 100 周年記念行事が、全羅南道木浦市^{モッポ}で開催されました。高知県からは高知県知事、高知市長等約 90 名の訪問団が参加し、韓国側も、全羅南道知事、木浦市長等多くの関係者が参加しました。

今回は、高知県からクリアへの活動支援を通して参加した本イベントや田内千鶴子さんがきっかけで始まった、高知県と全羅南道との交流等についてご紹介します。



■田内千鶴子さんと木浦共生園について

田内千鶴子さんは、1912 年に高知市若松町で生まれ、7 歳の時に、朝鮮総督府官吏の父の赴任地、韓国木浦にわたりました。その後、キリスト教伝道師で、「木浦共生園」で孤児と共生している尹致浩^{ユンチホ}さんの活動に共鳴し、共生園での奉仕を始めました。やがて二人は夫婦となり、大勢の孤児らの父と母となりました。しかし、朝鮮戦争の最中子供たちの食糧調達に行った尹致浩さんが行方不明となり、遺された千鶴子さんは夫の遺志を継ぎ、韓国に留まり 56 歳で生涯を閉じるまで 3 千人もの孤児らを育てあげました。1963 年には日本人として初めて韓国文化勲章を授与され、1968 年に亡くなられた際には木浦市初の市民葬が行われ、3 万人もの人が集まり彼女の死に涙を流しました。



木浦共生園の子どもたちと高知県からの訪問団との交流の様子

そして、今回の訪問中には、現在も運営されている木浦共生園において、在籍している小学生たちとの交流が行われました。

■田内千鶴子さんがきっかけで始まった高知県と全羅南道との交流

高知県と全羅南道との交流は、1997 年に田内千鶴子さんの記念碑が高知市に建立されたことをきっかけに始まりました。2003 年には、観光・文化交流の増進を通じて友好関

係を発展させるため、観光・文化交流協定書が締結されました。さらに、2009 年には、産業分野まで交流を広げる産業交流協定が締結され、現在も活発な交流が行われています。

■今回開催された主な行事

開催日	行事名
10月30日(火)	1. 田内千鶴子さんのお墓参り
	2. 木浦市長主催晩餐会
	3. 田内千鶴子さん生誕 100 周年記念式前夜祭
10月31日(水)	4. 木浦共生園の子どもたちとの交流
	5. 田内千鶴子さん生誕 100 周年記念式及び 国連「World Orphans Day」制定推進宣言大会

高知県等日本からの参加者は、全羅南道や木浦共生園等の関係者から暖かいもてなしを受け、和やかな雰囲気の中、それぞれの行事が行われました。

■行事に花を添えるよさこい踊りの披露！

高知県一行の中には、よさこい踊りの団体「濱長花神楽」も含まれており、10月30日(火)の木浦市長の歓迎晩餐会と10月31日(水)の生誕 100 周年記念式の際に演舞を披露しました。メンバーが華やかな衣装に身を包み、躍動的な踊りを披露すると、韓国の方々から大きな拍手と歓声が送られました。



お墓参りの様子



生誕 100 周年記念式でのよさこい演舞

■今後の高知県と全羅南道との交流について

高知県と全羅南道の交流は、友好・文化面での交流にとどまらず、観光交流や産業交流という、経済的な分野まで広めていることが特徴です。海外の都市と交流を続けるには、このようにテーマを決めて、お互いに有益な具体的な分野での交流をすることが、長期的に交流していくうえで必要なことではないかと思えます。

高知県と全羅南道との交流は、来年で観光・文化交流協定締結から 10 周年を迎え、田内千鶴子さんがきっかけで始まった交流を今後さらに深めていきます。

(宮下所長補佐 愛媛県派遣)